



VOL.59 winter

2010年12月24日



編集／釜石市総務企画部少子化対策・男女共同参画推進室

〒 026-0024 釜石市大町 3-8-3 青葉ビル

TEL ; 0193-22-5121 FAX ; 0193-22-6002

URL ; <http://www.city.kamaishi.iwate.jp/>

E-mail ; Syousi@city.kamaishi.iwate.jp

◎ **特集**

男女共同参画の推進のために

「歩き方」 21 男女共同参画推進の会 岩切 久仁

◎ **報告**

釜石市男女共同参画まちづくり市民大学

◎ **さんかくニュース**

平成 22 年度「いわて女性のつどい」開催のご案内

釜石市男女共同参画まちづくり市民大学第 3 回講座

「少子化対策・男女共同参画推進室主催行事」ほか

特集

男女共同参画の推進のために

岩手県では、男女共同参画に興味・関心があり、その推進活動に意欲のある方を「男女共同参画サポーター」（岩手県知事認定）として養成しています。当市においても、釜石市男女共同参画推進プランに基づき、地域リーダーの育成のため、当該講座の受講促進に努めております。毎年1～3人が受講し、平成21年度末までに13人がサポーターとして認定されています。

今年度については、5月から7ヶ月間に及んで「平成22年度男女共同参画サポーター養成講座」が開催されました。その講座も11月4日をもって終了し、新たに寺田恵美子さんと森脇麻紀さんの2人が「男女共同参画サポーター」として認定されました。

「男女共同参画サポーター」には、男女共同参画推進のための地域での自主的な取り組み活動や、県や市の事業への参画・協力が期待されており、当市としても男女共同参画サポーターとの連携・協力を図りつつ、男女共同参画事業に取り組んでおります。

そこで、今回から、当市の男女共同参画サポーターの方々に、活動状況や男女共同参画について思うことなどを綴っていただきますので、男女共同参画社会の実現のために、私たちはどのように行動していけばいいのか、考えてみてください。

トップバッターには、当市で最初に「男女共同参画サポーター」として認定された岩切久仁さんをお願いいたしました。岩切さんは、「21 男女共同参画推進の会」の事務局長をされており、釜石市男女共同参画推進協議会委員としてもご活躍されております。

「歩き方」

21 男女共同参画推進の会 岩切 久仁

いつも心の中にいる父は69歳、母は71歳でのお別れでした。自分も父母の生きた長さに近づきつつあり、その二人の人生と自分とを比較している時が時々ある。

比較すると言うのもどこやら変なことで、時代背景からまったく異なっていることなのに、でもやっぱりひとりつぶやいていたりする。

母は、自分を充分に生かしかれた瞬間を感じた時があったのだろうか。

心から嬉しいと感じる時をいくつかもって生きてきたのだろうか。

随分失礼なことをと母は怒るでしょうか。母の若々しい時を戦争という苦難な時代にあって、どう生きたのか、今になって尋ねてみたい。

戦争を知らない私は、まずは母よりはいい時代に生きていると思う。

私が子供のころ、お盆の午後は、父・母・姉・弟と5人でお墓へ行く習慣があった。

一番先に父、その後ろに日傘をさした母。母の左右には姉や私・弟がいた。

車もない時代だったので、街をそんな並びで歩いていた。あるとき私は母へ「どうして父さんと並んで歩かないの」と聞いたことがあった。母は、「夫の後ろを3歩下がって歩くのが妻の姿なんだよ」といった。その時は何の不思議もなく、ただ一家5人揃いで歩く嬉しさに、スキップしたりしていた。

現在私が夫と歩く場合、足の歩幅の違いで差がついたりはあるが、基本的には肩を並べて「あーだこーだ」と話しながら歩く。

昔の父は、一人先頭を歩き、それはちょっと孤独を感じながらの歩きではなかったろうか。そして一家の責任をひとりだけで背負っていたのかもしれない。

自分は、母と手をつないで歩いた記憶はあるように思うが、父とは無いような気がする。父は幼いわが子の手の手をひいて歩いたことがあっただろうか。

父に失礼なつぶやきでした。父は天国で怒っているかもしれない。いっぱい抱っこしたぞと。

社会人になってから、父へ「父さんの生きがいは何なの」と聞いたことがある。教育者だった父は、子供（生徒達）の可能性についていつも熱心に語っていたので、そんなことを言われるのかと思っていたら、「3人のわが子の成長だよ」と言われ、いたく心に残った思い出がある。

いま私が、父・母へ夫婦の歩き方について話したら、肩を並べ二人揃って歩くかしら。

報告

釜石市 男女共同参画 まちづくり 市民大学



釜石市男女共同参画まちづくり市民大学は、去る11月13日（土）から今年度の講座がスタートしました。

第1回目の講座は、人権をテーマに、最近よく耳にする「親権」や「面接交渉権」などを学ぶために、講師に盛岡家庭裁判所遠野支部長の笹本哲朗氏をお迎えして「家事調停について」と題し、1時間半ほど講演していただきました。昨年度に比べて受講申込は増加し、当日の受講者は28人を数えました。その内、男性の受講者は3人で、もっと増えて欲しいとの声も聞かれました。

受講者の皆さんは、重いテーマであることから終始真剣な表情でした。調停とは何か、調停手続きの流れ、調停の理念など、家事調停についての総論を説明していただいた上で、離婚、親権者、面会交流（面接交渉）、養育費・婚姻費用、財産分与など事例を交えた講義内容に聞き入っていました。

家事調停の話聞く機会など滅多にないことから、講座終了後、受講者の多くの皆さんからは、有意義な講座であったとの感想が寄せられましたので、ここでいくつか紹介いたします。

初めて参加しましたが、男性の参加が少なく思いました。難しいと思いますが、多くなって欲しいと思います。

（60代女性）

DVの調停について、裁判所が色々と配慮していることがわかってよかった。

（40代女性）

具体的な事例をあげて話されて、わかりやすかった。最初に用語解説をした方がわかり易かったと思う。たとえば、当事者、第三者、ジェンダーなど

（70代男性）

子どもの虐待と非行には、大きな関係があるといわれます。子どもの心に傷をつけない方法を最優先に考えるべきだと思いますが、そのことを一番に考えた解決を提案されていると言う話が聞けて安心しました。

（40代女性）

調停の意義「認識の相違を確認し、解消、解決する点」「事実関係の認定ではなく、解決案を探る点」であることが理解できました。

（60代女性）

家事調停の岩手県内・遠野管内の動向等はなかなか分からないので、数字を挙げての説明は良かった。地域の裁判官の方とお会いする機会がないので興味があった。お若いのでびっくりした。

（60代女性）



【調停の理念】
個人の尊厳
両性の本質的平等
公正中立
ジェンダーバイアスの排除

⑨ ～ 平成22年度「いわて女性のつどい」開催のご案内

県と岩手県女性団体連絡協議会の主催で、平成23年2月4日（金）午前10時30分から盛岡市民文化ホール（マリオス）において、平成22年度「いわて女性のつどい」が開催されます。今年度は「国際交流」をキーワードに、人と人とのつながりを大切に、お互いを尊重する男女共同参画社会の実現を願い開催するもので、講演とパネルディスカッションが予定されています。

参加申込は、平成23年1月7日までとなっております。詳しいことは、市少子化対策・男女共同参画推進室にお問い合わせください。

⑩ ～ 釜石市男女共同参画まちづくり市民大学第3回講座

平成22年度「釜石市男女共同参画まちづくり市民大学」は、平成22年11月13日から好評実施しておりますが、最終回となる第3回講座は、平成23年1月15日（土）午後1時30分から青葉ビル研修室において開催いたします。今回のテーマは、ワーク・ライフ・バランスです。講師には、岩手県男女共同参画センター職員の晴山玲美氏をお迎えして、「仕事と生活の調和～自分らしい時間を手に入れるために～」と題しての講演をお願いしております。受講申込方法など詳しいことは、市少子化対策・男女共同参画推進室にお問い合わせください。

I N F O R M A T I O N

市少子化対策・男女共同参画推進室の1月から3月の行事

- 1月13日（木）釜石・大槌地域子育て支援ネットワーク
構築ワークショップ
釜石地区合同庁舎4階大会議室
- 1月15日（土）釜石市男女共同参画まちづくり市民大学
第3回講座 青葉ビル研修室
- 2月4日（金）平成22年度「いわて女性のつどい」
盛岡市民文化ホール（マリオス）

情報・アイデア 募集中 !!

市少子化対策・男女共同参画推進室では、**れでいす・ねっとわーく**掲載用の情報・アイデアを随時募集しています。

【お問い合わせ】

市少子化対策・男女共同参画推進室

TEL:0193-22-5121

FAX:0193-22-6002

E-mail ↓↓↓

Syousi@city.kamaishi.iwate.jp

件名に“れでいす・ねっとわーく宛”
とご記入ください。



今年も残すところあとわずかとなりました。毎年12月になると、今年もあつと言ったと思うのですが、年々それが加速しているように思われます。

充実した時間であれば問題ないのですが、少々もすると、悔いの残ることばかりで。このように思うこと自体が年をとった証拠といわんばかりですが、「来年に向けてきちんと計画を立てて実行していくぞ」と自分に言い聞かせている今日この頃です。

今年もたくさんの皆さんに支えていただきました。ほんとうに、ありがとうございました。来年もよろしく願いします。
(K. I)

現在、当室では「くろがね・ぎやざりんぐ・ぶれーす懇談会」（直訳で「鉄のたまり場」）という若者だけの委員会を展開しています。

市内事業所から推薦いただいた概ね35歳までの若者17名が、若者世代が楽しい釜石市を語り合い、若者の意見を市政に反映させる委員会です。

委員は、男性9名・女性8名でほぼ半数のため、意思決定過程には必ず男女の意見が反映されます。若者の意見は、男女の視点の違いもありますが、お互いに認め合っているため、楽しい意見集約ができそうです。

結果は来年度なので、来年は面白い年になりそうです。若者が活気がある明るい年になりそうですように。(A. H)